

## 子育て支援を実践する時の 基本となる視点

遠藤 夏美

1

ここでは…  
子育て支援の中でも特に  
**心配な様子が見られる親子**を  
支援していく上で、  
基本となる“捉え方”や“考え方”の  
「視点」を確認します。



実践の手がかり

2

基本的な視点には次のようなものがあります

1. 子育て支援は「保護者支援」
2. 保護者の視点に立つ
3. 一人（園のみ）で対応せずサポーター的な支援体制を作る
4. 社会資源を活用する
5. 悪者探しをしない
6. できていることや力を見つけて活用する
7. 状況や環境など全体として捉える
8. 虐待にはリスクがある
9. 発達障害は環境を整える
10. 園の役割と他機関の役割がそれぞれ機能する

3

### 視点 その1 子育て支援は「保護者支援」

子育てに関わる支援「子育て支援」では、子どもに何か気になることがサインとして表れやすいため、それを改善するために関わろうとすると、子どもが中心に置かれやすくなります。

保護者を「子どもを世話する役」と捉えるのではなく「**子育てをしている人**」として**主役（支援の中心）**に据える必要があります。



4

## 視点 その2 保護者の視点に立つ

保護者支援において必要で役に立つのは「保護者の視点に立つ」ことです。支援者(保育者)の視点から考えている時は、どうしても「あるべき姿」を基準に考えているお母さん(お父さん)はこうなんだろう」「こういふべからず」なことを強いてしまおうなんて、困った保護者だな」「どうしたら、こうやってしてくれるんだろう?」などとも困惑し、困って行き詰まることが多くなります。

保護者の視点に立ってみると、保護者から見えていること、保護者が抱えているもの、保護者が感じていること、保護者が求めていること…が感じ取りやすくなります。

その結果、保護者への理解が深まり、“保護者への印象”が変わってくることもよくあります。そうすると支援者から保護者への関わりも自ずと変わってきます。



5

視点 その3 一人(園のみ)で対応せずサポーター型な支援体制を作る

担任の保育者が対応する、主任が対応する、園だけで対応する…といった特定の人や機関だけで保護者への子育て支援を行なっていると

- ・多様な視点や関わりや支援ができない
- ・各機関や支援者の専門的機能や役割を活用できない
- ・親子を取り巻く環境全体への長期的支援ができない
- ・支援者や園が疲弊する



といった弊害が生じます。  
これらはいずれも保護者や子どもにとっての不利益につながります。

園全体、関係機関みんなで“役割を分担”し“協力”して、互いに“支え合う”サポーターズな支援体制を作ることが効果的支援に必須です。

6

## 視点 その4 社会資源を活用する

子育て支援で目指す親子のあり方は、

- ❌ 親子が本人たちの力のみで生活を成立させる
- 社会の中で居場所と繋がりを持ち、様々な支援メニューや支援者を必要に応じて活用しながらリスクを補って生活していく

どのようなサポートがあれば、親子のストレス状況やリスクが軽減して生活していくことができるのか？

⇒ **社会資源**（活用できる支援メニュー、支援者、サポートしてくれる人等）を活用して必要なサポートを受けられるように環境を作っていく。



7



8

## 視点 その5 悪者探しをしない

現在の問題が起きているのはなぜか…？

と原因を探っていくと「この人のここが原因だ」と見えてくるがよくあります。

本当にそうでしょうか？

その人がそのように振る舞うことにも原因や理由があります。私たちは皆、さまざまな状況や関係からの影響を受けており、相互作用が起きています。また、その人の存在や行為が、ある面ではマイナスでも、別の面ではプラスに働いていることもあります。

「この人のここが原因だ」と思っても、ある一面ではそうかもしれませんが、別の面ではそうではなかったり、その部分が変化したとしても状況は変わらなかったり、誰か一人に負荷をかけると長続きしなかったり他の形で表れたり、関係者の関係が悪くなったり…と現実的な改善につながらないこともよくあります。

「誰が悪いのか？」という視点は全体の状況を見えにくくし、事態の改善には役に立たないのです。

役に立つのは「今、何が起きているのか？」という視点

良い・悪いは脇に置いて、起きていることをさまざまな角度から、それぞれの立場に立ちながらフラットに見ることによって状況を正確かつ全体的に捉えることができます。



9

## 視点 その6 できていることや力を見つけて活用する

現在起きている問題やリスクをよく捉えて判断することも大切ですが、そればかりでは保護者はエンパワメントされません。



保護者や家族の「できていること」「力」「強み」（ストレングス、アセット）にも目を向けていくことによって、支援の手がかりを得ることができます。また当事者達の力が高められ、状況改善に向かいやすくなります。

・「ダメな保護者や家族」のイメージ

⇒別の側面が見えてくる

⇒保護者や家族の力を尊重し、支援に活用できる

・支援者が“見つける”ことによって“活用”できる

・自己肯定感が高まり、主体性が発揮される



10

## 視点 その7 状況や環境など「全体」として捉える

保護者も子どもも独立して存在しているわけではなく、現在置かれている状況や環境の中で生活している「生活者」です。

それらを切り離して考えていると現実的で効果的な支援になりません。

離婚協議中、病気から回復したばかり、不妊治療中、孤独な育児、多忙な仕事、ストレスフルな家族関係、近隣環境が良くない、経済的な不安がある、リストラ、DVがある、家が住みにくい、ビザの不安がある、引越してきたばかり、友人関係、子どもが多い(少ない)・・・など

状況や環境にも目を向けて全体的に見ることで、より理解が深まります。



11

## 視点 その8 虐待にはリスクがある

保護者や家族の持つ力に目を向け、活用しながら支援していくとはいえ、「虐待」が懸念される場合は、リスクを意識することが大切です。

「虐待」による影響は多大であり、リスクも時に怪我や死亡といった甚大なものになる危険性をはらんでいます。また、虐待状況が続くことによって子どもが受ける不利益が非常に大きいという事実もあります。さらに、主な虐待者をもう一方の保護者が抑止できないことが多いのも虐待の特徴です。

したがって虐待が懸念される場合は、速やかに専門機関に連絡し把握してもらうことが、子どもに関わる施設の大きな役割となります。

専門機関がリスクを判断し、その程度に応じて支援体制を構築して複数の機関で役割分担しながら見守りや介入をしていくことができます。



12

## 視点 その9 発達障害は環境を整える

発達障害がある（可能性のある子も含む）場合は、その子の育ちが特有の進み方をすることを考慮して、

- ❌ できないことや不得意なところができるようにする
- ❶ その子なりに過ごし活動できる環境にする

という視点で支援します。

特徴的なものの感じ方、捉え方、表現の仕方、関わり方などがあるため、それらがその子どもにとって「良くないもの」と否定されたり矯正されたりすることなく、その“特徴的な世界との関わり方”で十分にいろいろな経験をできるように「安心していられる居場所」で「受容される」ことが、その子どもにとって長期的に大きな助けとなります。

- ・保護者が安心できるように支援する
- ・保護者が子どもへの理解を深め、親子共によりストレスの少ない関わりを知るために、また子どもの育ちをサポートするために療育等の専門機関につなぐ

13

## 視点 その10 園の役割と他機関の役割がそれぞれ機能する

日々、子どもや保護者の一番近くで接している保育園、こども園、幼稚園では、子育て支援は「日常の中」にあります。

したがって、子育て支援のあらゆる側面で園が機能しなければならない…と感じてしまうことも起こりやすくなります。

園は「親子に直接かかわる」「体験を積み重ねる」といったことができるメリットを活かして、子どもを安全に保育する、子どもが安心や愛情を感じられる、健康な生活ができる、十分に遊ぶことができる、保護者に受容的に関わる、他機関とつながり…といった「園ならではの役割」を果たすことを意識し、他の機関の役割まで負いすぎないことも大切です。あえて別の機関が行う方がメリットが大きいこともたくさんあります。園が子育て支援に疲弊することなく、安心して他の機関に任せて、全体としての子育て支援力を高めていく視点が有効です。



14

## 基本的な視点 = 大事な視点

基本的な視点は「大事な視点」でもあります。



基本だからこそ忘れてしまうと  
大切にしたいはずのことが置き去りになってしまったり  
意に反して子どもや保護者の不利益になってしまうことにも  
なりかねません。

うまくいかない・・・そんな時こそ基本に立ち返ってみると  
「困ったね」の次を見つけていける“手がかり”を与えてく  
れることがよくあります。ぜひご活用ください。

15

## おまけ

母子の施設における保護者支援から

16

## 保育園・こども園に助けられる親たち

行き詰まっていた親子関係や子どもの状態

➡ 子どもが保育園等に入れたことで親がホッとする、負担が軽くなる。

子どもが園生活で成長する。

保護者にゆとりが生まれる ➡ 良い循環

親と子の両方にとって大きな利益  
他の関係機関にはできない支援



生活の場だから見えやすい  
→ 親に対してつい厳しくなってしまう

➡ 本当にそこまで必要？

相談員同士でよく話し合う。

自分の親の姿や、自分の価値観が反映していること  
にも気づく。これは「私」の気持ちだ。

子どもの利益との間で支援者も葛藤する。



17

18

桃太郎とお鬼さん  
は、  
おどろきと  
おどろきに  
なりました。



## 「桃太郎」と「鬼の子」

どちらの立場から見るか？で  
「正義」は変わる

- 1つの見方が正しいと思えない。
- 立場によって「正しい」ことも「幸せ」も異なる。
- 「○○のため」は周りからの見方

一方的な「めでたし、めでたし」を  
生まないために、  
広げよう、あなたがみている世界。

## 「それぞれのストーリー」に目を向けてみる

子どもを見る時

「この子」はなぜこうするのか？

下の子が生まれて、これまでこうだったのに、急にこんなふうになって…

今日はこうしたいと思って張り切っていたのに、こうだったから…

子どものストーリーを大事にしている。

親にもストーリーがある。しかも、もっと長いストーリーが。

人生のストーリー、今月のストーリー、今日のストーリー…

19

20

## 怒りをぶつけられることも

ホントは怒りたくないけれど…

悲しくて怒る 甘えたくて怒る

ストレスが溜まって怒る 不安で怒る

過去の出来事や体験と繋がって怒る

寂しくて怒る 悔しくて怒る 自信がなくて怒る

怒るのが癖になっている 怒るのがコミュニケーション手段

怒っていることに自己嫌悪で怒る

怒りの下にあるものはさまざまで、  
怒ると止められない人もいる。



➡ 怒りを止める手助け

- ◆ その人の気持ちや思いを言葉にする
- ◆ 複数で対応する
- ◆ 大声や怒鳴るのはやめてほしいと言う

21

22

## 日常の関わりは「体験」となる

投げたボールは消えてしまったような気持ち

…実は保護者に届いていて、反応はなくても蓄積する

➡ 保護者のタイミングでそれが活用される。

「体験」を提供できる＝日常に関わる支援者・保育者の強み

気にかけてもらえる体験 ありがとうと言われる体験

一緒に考えてくれる、喜んでくれる、困ってくれる体験

安心な居場所なんだと実感できる体験



23